

「子育て世代の父親等に関する政党アンケート」へのご回答

立憲民主党政務調査会

平素より大変お世話になっております。
この度ご送付いただきましたアンケートにつきまして、下記の通りご回答申し上げます。
ご査収の程、宜しくお願い致します。

貴党名 (立憲民主党)

質問	回答
1-1) 現在の産後の父親への支援については十分だとお考えですか?	①十分 ②十分ではないが、現状で満足すべき ③多少改善すべき ④大きな課題だと考えている
1-2) 産後の父親への支援の法的根拠をどこに求めますか。	(自由記述) 男性の産後うつなど、メンタルヘルスケア対策等も進むよう、法的根拠をどこに求めるかも含めて検討してまいります。
1-3) 産後の母子だけでなく父親を含めた家族を支援できるような法的な整備及び体制作りをどのようにお考えですか。	(自由記述) 母子とその家族が健やかに生活できるよう産後ケア事業を義務化するとともに、「産後ケアセンター」の開設と利用の促進を図っていきたいと考えています。
1-4) 上記貴党の政策を衆議院選公約・マニフェストなどとして国民に「確約」いたしますか?	①確約する ②確約する方向で検討する ③確約できない 各政策項目のどれを政権公約に掲げるかは総合的な判断によっておりますので、こちらで確約する、確約できないと申し上げることは困難ですが、今後も前向きに検討してまいります。

質問	回答
2-1) 現在、自治体や病院で行われている両親学級で、十分だと思われませんか?	①十分 ②十分ではないが、現状で満足すべき ③多少改善すべき ④大きな課題だと考えている
2-2) 自治体の行っている両親学級では、子を迎える男性に必要な情報や経験が行き渡らない現状について、その課題と対応策をどのようにお考えですか。	(自由記述) 自治体の行っている両親学級は、自治体によって内容に差があると考えます。そのため、妊娠前から出産・子育てまで一貫して子どもの育ちを支援し、家族全体の心身の健康サポートを行う日本版「ネウボラ」(子育て世代包括支援センターを中核とする子どもの育ちや子育てを支える地域ネットワーク)を全国で推進するなど、妊娠前から出産までの、男性を含む家族への支援を強化していきます。
2-3) 「企業版両親学級」を中小企業も含めて全国で展開していく促進施策をどのようにお考えですか。	(自由記述) 男性の育児休業取得率向上などのためのイクメンプロジェクトを拡充し、イクメン支援を行います。
2-4) の上記資党の政策を衆議院選公約・マニフェストなどとして国民に「確約」いたしますか?	①確約する ②確約する方向で検討する ③確約できない 各政策項目のどれを政権公約に掲げるかは総合的な判断によっていますので、こちらで確約する、確約できないと申し上げることは困難ですが、今後も前向きに検討してまいります。

質問	回答
3-1) 2022年施行の改正法も含め、現在の男性育休推進施策で十分だとお考えですか?	①十分 ②十分ではないが、現状で満足すべき ③多少改善すべき ④大きな課題だと考えている
3-2) これまで男性の育児休業取得を促すような法改正をしてきたにもかかわらず、取得率/取得日数がなかなか向上しない理由は何だと考えますか。	(自由記述) 「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見、思い込み)」などにより取得率が向上しないと考えています。企業による自主的な取り組みに委ねるだけでなく、国の方針としての政策誘導等、必要な措置を講じます。

<p>3-3) さらに男性の育休取得および取得後の支援を進めていくために、国や自治体、企業などの事業主に対して、どのような政策が必要だと貴党は考えますか。 具体的な数値や時期についてもご開示ください。</p>	<p>(自由記述) 家族（とりわけ子ども）のための休暇や休業制度の整備と、その取得が男女や雇用形態等の差別なく可能な就労環境を確立します。育休の一定期間を父親に割り当てる「パパクオータ制」、男性を含め一定期間の育児休業付与の義務化の導入も含め、男性の育児休業取得率向上などのためのイクメンプロジェクトを拡充し、イクメン支援を行います。少なくとも2025年までに30%以上になるように取り組みます。</p>
<p>3-4) 上記貴党の政策を衆議院選公約・マニフェストなどとして国民に「確約」いたしますか?</p>	<p>①確約する ②確約する方向で検討する ③確約できない 各政策項目のどれを政権公約に掲げるかは総合的な判断によっていますので、こちらで確約する、確約できないと申し上げることは困難ですが、今後も前向きに検討してまいります。</p>

質問	回答
<p>4-1) ポストコロナ時代の働き方の変化について、国としての支援は十分だと考えますか?</p>	<p>①十分 ②十分ではないが、現状で満足すべき ③多少改善すべき ④大きな課題だと考えている</p>
<p>4-2) 国会議員のデジタル化が進まない現状について貴党はどのように考えておられますか。具体的な今後の施策や行動計画についても記載ください。</p>	<p>(自由記述) まずは国会や党の会議で配布される各種印刷物のペーパーレス化や役所への質問レクや役所からのヒアリングのオンライン化などを推進していくことが重要と考えます。今後も危機管理、共生社会、業務効率化の観点から、国会・地方議会での議会活動のデジタル化が進むよう努力していきます。</p>
<p>4-3) テレワークについて、コロナ禍における働き方に対応するための一時的な推進に留まらず、ポストコロナ時代の働き方を全国的に推進するため、どのような政策が必要だと貴党は考えますか。</p>	<p>(自由記述) 結婚、出産、介護、看護などさまざまなライフステージで、子育てや介護など、家族的責任がある労働者も就労の継続や両立が実現できるテレワークやサテライトオフィスなど働き方の工夫を支援すべきです。</p>

<p>4-4) 上記貴党の政策を衆議院選公約・マニフェストなどとして国民に「確約」いたしますか?</p>	<p>①確約する ②確約する方向で検討する ③確約できない</p> <p>各政策項目のどれを政権公約に掲げるかは総合的な判断によっていますので、こちらで確約する、確約できないと申し上げることは困難ですが、今後も前向きに検討してまいります。</p>
--	---

質問	回答
<p>5-1) 現状の社会保障制度や国の施策、法制度は適正なものと考えますか。</p>	<p>①十分適正 ②適正ではないが、現状で満足すべき ③多少不適正</p> <p>④不適正</p>
<p>5-2) 5-1 で不適正とお考えの場合、具体的な問題、課題をどのように認識していますか。</p>	<p>(自由記述) 保育や介護など、生きていく上で不可欠なベーシック・サービスが足りていません。</p>
<p>5-3) 5-2 で具体的な問題、課題の認識を示されている場合、どのような改革案をお考えますか。</p>	<p>(自由記述) 介護・障がい福祉サービスや、医療、放課後児童クラブ、保育などのベーシック・サービスの質・量を充実させます。そのため職員の待遇改善を図り、希望する非正規職員について5年をめどに正規化します。</p>
<p>5-4) 社会保障制度について、特に被扶養者における受益と負担の関係性について、貴党の政策をより具体的に(数値や時期などの定量的な要素を含め)お示してください。</p>	<p>(自由記述) 誰もが必要な医療や介護、子育て支援などのサービスについて、必要なときにためらうことなくサービスが受けられるよう窓口などでの自己負担を適正化します。</p>
<p>5-5) 上記貴党の政策を衆議院選公約・マニフェストなどとして国民に「確約」いたしますか?</p>	<p>①確約する ②確約する方向で検討する ③確約できない</p> <p>各政策項目のどれを政権公約に掲げるかは総合的な判断によっていますので、こちらで確約する、確約できないと申し上げることは困難ですが、今後も前向きに検討してまいります。</p>

質問	回答
6-1) 現行の都市整備計画を含め、現状の行政や施策、法制度でも子どもの遊び場を守ることに十分だとお考えですか?	<p>①十分</p> <p>②十分ではないが、現状で満足すべき</p> <p>③多少改善すべき</p> <p>④大きな課題だと考えている</p>
6-2) 具体的な問題や、その原因は何でしょうか。	<p>(自由記述)</p> <p>少子化の折、子どもの遊び場を守ることは重要と考えます。美しく住みやすいまちづくりを進めるため、都市計画法や建築基準法などの規制を見直します。</p>
6-3) 貴党がお持ちの子どもの権利を守る(特に遊ぶ権利)政策をより具体的に数値や時期などの「定量」を含めてご開示ください。	<p>(自由記述)</p> <p>子どもの権利条約にのっとり、子どもの権利と最善の利益を最優先とする子ども中心のチルドレン・ファーストの政策を実現します。まずは、子どもを権利の主体と捉え、その権利を擁護するため、イギリスの「子どもコミッショナー」やノルウェーの「子どもオンブット」のような、子どもの権利利益を擁護する独立機関の設置を目指します。子どもの声を聞き必要な政策を講じていきます。</p>
6-4) 上記貴党の強を衆議院選公約・マニフェストなどとして国民に「確約」いたしますか?	<p>①確約する</p> <p>②確約する方向で検討する</p> <p>③確約できない</p> <p>各政策項目のどれを政権公約に掲げるかは総合的な判断によっていますので、こちらで確約する、確約できないと申し上げることは困難ですが、今後も前向きに検討してまいります。</p>

以上